



パレモ信条

- 一、私達はお客様の声を大切にします
- 一、私達は明るく楽しく前向きに主体性ある職場をつくれます
- 一、私達は魅力あふれるブランドを提案します
- 一、私達は自らの努力で高い目標に果敢に挑戦します
- 一、私達は仲間と感動を通して輝かしい明日を創造します

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成 20 年 2 月 15 日
登録番号 C 0 0 2 4

仕事と家庭の両立に配慮した取り組みを行なう愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

PALEMO CO., LTD.

第28期第2四半期報告書
[2012.2.21.～2012.8.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



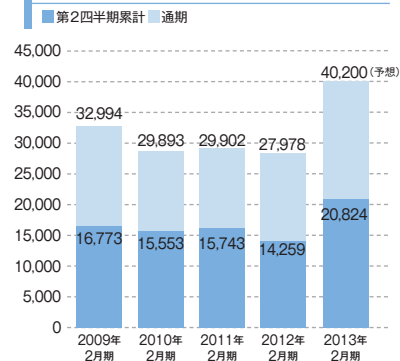
PALEMO という社名は、「PAL (仲間)」と「EMOTION (感動)」の二つの言葉を合わせた造語であり、「感性豊かな仲間たちとともに人生、仕事の感動を味わう」という思いが込められています。

INDEX

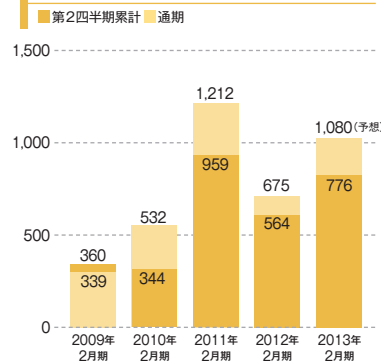
株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
店舗の概況・アパレル事業の概況	5
雑貨事業の概況	7
四半期財務諸表	8
株式情報	9
会社情報	10

経営成績

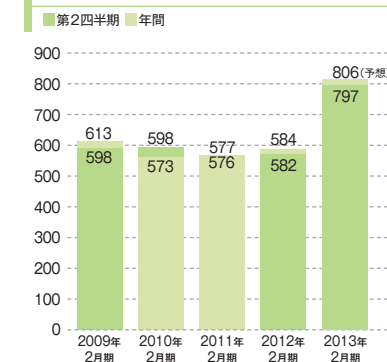
売上高 (百万円)



経常利益 (百万円)



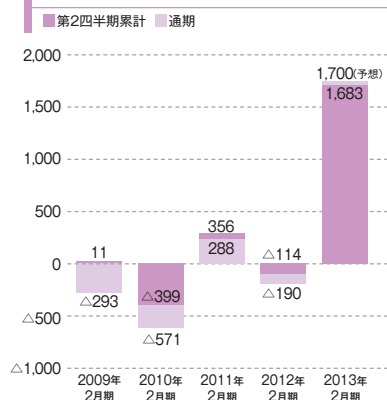
期末店舗数 (店)



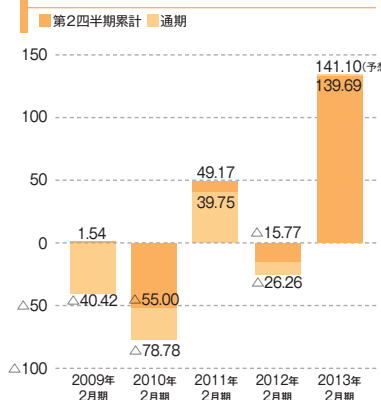
1株当たり配当金 (円)



四半期(当期) 純利益(損失) (百万円)



1株当り四半期(当期) 純利益(損失) (円)



永続的安定成長に向け、パレモは進化してまいります

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第28期第2四半期報告書をお届けするにあたりまして、謹んでご挨拶申し上げます。

当社は本年2月21日に株式会社鈴丹と合併いたしました。こうして「新生パレモ」として新たな一歩を踏み出すことができましたのも、これまでの株主の皆様のご支援ならびにご厚情の賜物と存じます。改めて深謝いたします。合併による統合におきましては、組織人事を含めまして、順調に進んでいることをご報告申し上げます。

さて、この第28期第2四半期累計期間におけるわが国経済は各種政策の効果などを背景に、企業収益・雇用状況に緩やかな回復の動きがみられたものの、長引く円高や欧州の債務問題ならびに新興国の景気減速懸念などにより、不透明感が強まりました。当社が属する専門店業界は、新設商業施設が減少する中、寡占化した競争環境が進み、厳しい環境で推移しました。

このような環境の中、当社は、合併後の「事業基盤の整備ならびに増強」に注力することを中心に、「多核化ブランド戦略」を基本といたしまして、「郊外主力事業の強化」ならびに「都心ブランドの成長拡大」に取り組んでまいりました。当第2四半期累計期間における決算は、合併による効果により「増収増益」となりましたが、新たな成長を目指した収益性の

向上ならびに拡大が課題となりました。

下半期におきましては、ディビジョン体制を基盤に、各ブランドが「強化と変革」により進化し、厳しい競合環境の下での成長を目指してまいります。

そして、今後も企業価値ならびに株主価値の向上に向け、役員をはじめ社員一同、専心努力する所存でございます。また企業の社会的使命を重視すると同時に企業統治ならびに内部統制を強化しまして、企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

指針

正しい経営

安定成長

ローコスト経営

人財経営

代表取締役社長

小田保則



～Doing it～ 進化し続けることにより成長を目指す

「新生パレモ」として「仲間と挑戦」をテーマに今期をスタートしています。市場が拡大しない中で、成長を果たすには、進化し続けることが重要です。そのために、自分の強さを見失わずに、その軸を更に強化していくことと、環境変化に対応して変革していくことに取り組んでまいります。



Q1 当第2四半期累計期間の業績および取り組みについてお聞かせください。

合併による増収増益	当第2四半期累計期間の業績は、売上高208億24百万円(前年同期比146.0%)、経常利益7億76百万円(前年同期比137.5%)となりました。四半期純利益は株式会社鈴丹から引き継いだ繰越欠損金に対する繰延税金資産計上等によりまして、16億83百万円となりました。
既存店売上高 前年同期比96.8%	

既存店売上高前年同期比(株式会社鈴丹の前年同期実績を加味した前年同期比)は、第1四半期100.1%、第2四半期93.6%となり、累計期間としましては96.8%となりました。特に、6月期ならびに7月期において、天候不順と競合各社のセールの拡大が影響した結果、この両月の既存店舗の減収が大きく響き、収益にも影響した結果となりました。

上半期の取り組みにおきましては、①合併後新体制の早期確立②既存店舗の活性化③ディビジョン体制によるブランド力およびMD(マーチャンダイジング)力強化④商品企画開発力の創造⑤販促強化⑥接客サービスの強化などに取り組みました。また、事業組織をディビジョン体制に変更し、直接貿易を担当する専属部署の設置ならびに商品管理を強化するためのDB(ディストリビューター)の増員を実施いたしました。

合併による統合におきましては、組織人事ならびにシステム

など順調に進みましたが、業務手法が一気に変わったことによる苦労があり、一部支障が発生いたしました。今現在では、これに慣れてきており不備はなくなってきたと認識しております。

既存店舗の活性化におきましては、ブランド転換ならびにVP(ヴィジュアルプレゼンテーション)の変革を目的に、年間50店舗の予定の下、27店舗実施しました。前年同期の実施店舗は10店舗であり、今期はこうした改装に注力して取り組んでいます。「GAL FIT」から「RecHerie」へのブランド転換など効果が出ており、今後も積極的に進めてまいります。

ディビジョン体制により、各ブランドの商品、営業ならびに販促の一体運営により、独自のブランド力およびMD力の向上を図ってまいりました。雑貨事業において、特に既存店舗が二桁伸長と好調な結果となった「INCENSE」ならびに「Siebelet」のMD力の向上が図られ、その効果が発揮されました。下半期には出店拡大も視野にいられて臨んでまいります。

その他、販促におきましては、雑誌媒体の強化と店頭ポスターによるVPの向上に取り組み、接客サービス力に対する意識向上にも全社で取り組んだ結果、顧客化への一定の効果はあったものと考えております。

店舗の出退店におきましては、上半期は既存店舗の改装に注力した結果、出店は13店舗、また、催事の不算店舗の退店などを32店舗実施しました。合併に伴う店舗増232店舗を加えまして、当第2四半期末店舗数は797店舗となりました。

Q2 今後の方針ならびに下半期の施策についてお聞かせください。

専門店業界の今後は、デフレの長期化や少子高齢化を背景に、寡占化された競合環境がますます進んでいくものと考えます。そして、消費増税や短時間労働者の社会保障費の負担増などの懸念もあり、環境はより厳しさが増していくことでしょう。

また、当社が入居する商業施設の環境も、競争が激化することにより施設毎の特徴化が進行していく一方、都心商業施設の活性化の拡大は続いていく見込みであり、郊外SC(ショッピングセンター)の来店客層も変化していくものと考えます。

こうした環境下において、割引販売などのセールは今後も続くでしょうし、また、今後も天候不順は当たり前になってきます。これらを当然として、収益性を強化していくには、自らを進化させて、お客様の支持を拡大していくことが重要と考えます。他社のセールに惑わされない独自の商品力ならびにブランド力、そして顧客化の推進が鍵となると思います。

また、合併による人財の交流、活用により、各ブランドのブランド力ならびにMD力の向上につなげていくと同時に、小集団の力が成果に結びつく体制作りに注力することにより、都心ブ

ランドの育成を図ってまいります。

商品企画開発力の強化におきましては、合併により対象店舗が約500店舗となったメリットを活かして直接貿易による商品調達を強化し、郊外主力アパレル事業の商品力強化につなげてまいります。前期の構成比は10%程度でしたが、中期的には30%を目標にしております。そのために、デザイナーや生産担当者の拡充、アセアン背景の取り組みなどを積極的に行なってまいります。

既存店舗の活性化におきましても、ブランドの転換やVPの変革を目的に改装を積極的に実施してまいります。また、販促強化にも継続的に取り組むと同時に、上半期に継続して取り組んだ接客サービス力の強化につきましても、顧客化推進をテーマに更に強化してまいります。

そして、郊外主力事業であるアパレルの「GAL FIT」「SUZUTAN」は、これまでの良さを磨きつつ、中心顧客であるヤングに付加して、30代の新たな顧客層を取り込むMDに取り組み、客数増につなげてまいります。

最後に、当社は、「永続的安定成長」を目指した「多核化ブランド戦略」を基本にして、ディビジョン体制を基盤に各ブランドが「強化と変革」を絶えず繰り返し、進化することにより成長を目指してまいります。そして、収益拡大は「都心への深耕」、収益率向上は「直接貿易商品の強化」を重点施策として取り組んでまいります。

● 当第2四半期累計期間の業績の状況

(単位:%)	
売上高前年同期比	146.0
経常利益前年同期比	137.5
既存店売上高前年同期比	96.8
売上総利益率(前年同期比増減)	+0.3
営業費売上比率(前年同期比増減)	+1.5

注) 既存店売上高前年同期比については、株式会社鈴丹の前年同期実績を加味し、前年同期比を算出しております。

● 当第2四半期累計期間の事業別の状況

(単位:百万円、%)				
	前第2四半期 売上高	構成比	当第2四半期 売上高	構成比
アパレル事業	9,822	68.9	15,692	75.4
雑貨事業	4,320	30.3	4,502	21.6
その他の事業	117	0.8	629	3.0
全社	14,259	100.0	20,824	100.0

●展開ブランドの状況

アパレル事業(10)		雑貨事業(5)
Rechlerie	DOSCH	木 糸 土
Visalia v.v.p	Li Meduo	Hare no hi
S.Σ ² .C.	GAL FIT	illusive ³⁰⁰
SUZUTAN	Forest Heart	Siebelet
Re-J	su*pu*re	INCENSE

●スクラップ&ビルドの状況

	前第2四半期	当第2四半期
出 店	24店舗	13店舗
退 店	18店舗	32店舗
期 末 店 舗	582店舗	797店舗
店 舗 投 資 額	307百万円	436百万円

●ブランド別出退店の状況

D:ディビジョン (単位:店舗)						
	合併 増加	出店	退店	業態 転換	純増 (△減)	当第2四半 期末店舗数
ギャルフィットD	—	2	12	△1	△11	280
リ シ エ リ エ	—	0	0	6	6	14
ド ス チ	—	0	0	0	0	39
ギャルフィット他	—	2	12	△7	△17	227
ス ズ タ ン D	152	4	7	4	1	153
リ ジ ェ イ D	14	0	3	0	△3	57
エスアイツシーD	60	0	2	△2	△4	56
リ メ デ ィ オ D	—	0	2	0	△2	26
ヴィ サ リ ア D	—	0	0	0	0	5
アパレル事業合計	226	6	26	1	△19	577
シ ー ベ レ ッ ト D	—	2	2	△3	△3	104
イルーシー300D	—	2	1	3	4	32
イン セ ン ス D	—	0	1	0	△1	26
木糸土・ハレノヒD	—	3	0	0	3	8
雑 貨 事 業 合 計	—	7	4	0	3	170
複 合 店	6	0	2	△1	△3	50

ギャルフィットディビジョン



Rechlerie アビタ長津田店

Rechlerie
「大人可愛い」をコンセプトにファッションに敏感な女性に向けたワードローブを提案します。
DOSCH
強めて個性的な着こなしを好む女性に、最新の遊び心あるスタイルを提案します。
GAL FIT
最新トレンドファッションを中心に、ベーシックアイテムをバランスよくMIXし、リアルで等身大のスタイリングを提案します。

当社の基幹事業であるギャルフィットディビジョンは、期中に「GAL FIT」を2店舗出店しました。都心ブランドの「Rechlerie」については既存店舗からのブランド転換を6店舗実施した結果、当第2四半期末の店舗数は14店舗となりました。今後もブランドの転換を含む改装を積極的に実施し、既存店舗の活性化に努めてまいります。

リメディオディビジョン



Li Meduo イズミ夢彩都店

Li Meduo
自分のスタイルをもったポジティブな女性に向けて、質感に拘った上質な着こなしを提案します。

「Li Meduo」は、30代の大人の女性をメインターゲットにしたブランドであり、トレンドを程よく取り入れながら質感に拘った商品を展開しております。実際の顧客は30代中心から上の年代までを取り込んでおり、今後商業施設が特徴化されていく中で、都心、モール型SCへの出店を図ってまいります。

リジェイディビジョン



Re-J イオン秦野店

Re-J
洗練されたカジュアルスタイルを中心に、大きいサイズのお客様に向けてハイセンスなコーディネートと丁寧な接客で提案します。
su*pu*re
キャリアエレガンス・キュートカジュアル主体にヤングレディースのトレンドファッションを、大きいサイズで提案します。

大きいサイズを展開する「Re-J」は、「su*pu*re」の14店舗と統合し、当第2四半期末の単独店舗数は57店舗となりました。販売員の知識とサービス力の強化と同時にメールマガジンによる顧客化を推進しております。今後は認知度向上に向けて都心大型店舗への出店も検討してまいります。

ヴィサリアディビジョン



Visalia 渋谷109店

Visalia
v.v.p
いつでもかわいくおしゃれでありたい女の子に、トレンド感を取り入れたSWEET MIX STYLEを提案します。

「Visalia」は、当第2四半期末の店舗数が5店舗となりました。本年2月には渋谷109店を改装しており、ブランドイメージの刷新により前年同期を大きく伸長しております。今後はMD力強化によりブランド力を更に向上させ、9月オープン of 天神コア店を含めまして、都心への出店拡大を図ってまいります。

スズタンディビジョン



SUZUTAN イオン名古屋みなと店

SUZUTAN
ティーンズからミセスまでを顧客に、最新ファッションと着回しのきくベーシックアイテムをプブライスで提案します。

スズタンディビジョンの「SUZUTAN」は秋に新内装と新VPによる新たな店舗に取り組んでまいります。また期中にカジュアル系の「Forest Heart」をリブランディングし、新たに4店舗出店、ブランド転換を4店舗実施しております。今後もスズタンディビジョンの新たな成長に向けた進化に取り組んでまいります。

エスアイツシーディビジョン



SI2C 京都ポルタ店

S.Σ².C.
エレガンスな服もカジュアルな服も「×スイート」で大人可愛いフェミニンスタイルに仕上げて、大人になっても可愛いものが大好きな女性のオンからオフまでトータルにプロデュースします。

「SI2C」は、「品のある大人スイート」にテーマを絞り、ブランド力ならびに個性を磨いてまいります。都心ブランドとして、雑貨も含めたトータルな商品提案とヴィジュアル販促を強化して、認知度の向上を図り、都心立地での出店拡大を図ってまいります。

シーベレットディビジョン



Siebelet ペイドリーム清水店

Siebelet

毎日を楽しくさせる、トータル提案型雑貨ショップです。親子でワクワク楽しく過ごせる空間を提案します。

雑貨事業の主力であるシーベレットディビジョンは、主力商品の継続的な強化に加えて、オリジナルキャラクターなどの新商品の積極的な取り組みにより、既存店売上高が安定的に推移しております。「Siebelet」の期中の出店は2店舗であり、今後は出店拡大を目指すと同時に都心地下街型の業態開発にも取り組んでまいります。

インセンスディビジョン



INCENSE アビタ前橋店

INCENSE

レディース、メンズそして服飾雑貨からトラベルケースまでバッグとその関連商品をトータルで提案します。

「INCENSE」は商品力と接客による販売力が向上し、期中の既存店売上高が二桁伸長し、好調に推移しております。下半期からは新内装による出店拡大をしてまいります。更に進化していくために、オリジナル商品の拡充ならびに高単価商品への取り組みも強化してまいります。

イルーシー300ディビジョン



illusie300 モレラ岐阜店

illusie300

インテリア、キッチンなどの生活雑貨を、「ハッピー」「ワクワク」「ドキドキ」をキーワードに300円のワンプライスで提案します。

「illusie300」は期中に2店舗出店し、既存店舗からのブランド転換を3店舗実施した結果、当第2四半期末の店舗数は32店舗となりました。今後は店舗数の拡大に伴いオリジナル商品を拡大すると同時に、提案型VPを強化してまいります。更には、店装も刷新してブランド力を強化し、出店拡大をしてまいります。

木糸土・ハレノヒディビジョン



木糸土 ダイバーシティ東京プラザ店

木糸土

木、糸、土の素材を活かし「無理なく無駄なく」シンプルで飽きのこないアイテムを雑貨中心に提案します。

Hare no hi

モノが溢れる現代で、ひとつひとつの身の回りの品を、シンプルで手づくりの温もりを求める大人の女性に雑貨とアパレルでライフスタイルを提案します。

「木糸土」は期中に3店舗出店し、当第2四半期末店舗数は8店舗となりました。出店の内の2店舗を「Hare no hi（ハレノヒ）」として出店しております。匠の技によって作られる良質な商品は好評を得ており、その認知度の高まりから顧客化が進行することにより既存店舗は堅調に推移しており、今後も都心立地に積極的に出店してまいります。

四半期貸借対照表				(単位:百万円)
	当第2四半期 会計期間末 (平成24年8月20日現在)	前第2四半期 会計期間末 (平成23年8月20日現在)	前事業年度 (平成24年2月20日現在)	
■資産の部				
流 動 資 産	7,270	5,188	4,946	
固 定 資 産	11,518	7,493	7,253	
有 形 固 定 資 産	1,867	1,338	1,295	
無 形 固 定 資 産	90	55	52	
投資その他の資産	9,560	6,099	5,905	
① 資 産 合 計	18,789	12,681	12,199	
■負債の部				
流 動 負 債	7,724	5,343	5,580	
固 定 負 債	3,449	1,495	889	
② 負 債 合 計	11,174	6,838	6,469	
■純資産の部				
株 主 資 本	7,614	5,843	5,730	
資 本 金	1,229	1,229	1,229	
資 本 剰 余 金	1,433	1,203	1,203	
利 益 剰 余 金	4,952	3,417	3,305	
自 己 株 式	△0	△7	△7	
③ 純 資 産 合 計	7,614	5,843	5,730	
負債及び純資産合計	18,789	12,681	12,199	

POINT

- ① 資産合計は、187億89百万円となり、前事業年度末に比べて65億89百万円増加しました。主な要因は、株式会社鈴丹との合併により、流動資産が20億78百万円、固定資産が39億74百万円増加したことによるものです。
- ② 負債合計は、111億74百万円となり、前事業年度末に比べて47億5百万円増加しました。主な要因は、株式会社鈴丹との合併により、流動負債が42億2百万円、固定負債が16億12百万円増加したことによるものです。

四半期損益計算書				(単位:百万円)
	当第2四半期累計期間 (平成24年2月21日から 平成24年8月20日まで)	前第2四半期累計期間 (平成23年2月21日から 平成23年8月20日まで)	前事業年度 (平成23年2月21日から 平成24年2月20日まで)	
売上高	20,824	14,259	27,978	
売上原価	9,691	6,669	13,100	
売上総利益	11,133	7,589	14,877	
販売費及び一般管理費	10,601	7,044	14,246	
営業利益	531	545	631	
営業外収益	268	33	66	
営業外費用	23	13	23	
経常利益	776	564	675	
特別利益	4	4	7	
特別損失	86	522	586	
税引前四半期(当期)純利益	694	46	95	
法人税、住民税及び事業税	108	135	213	
④ 法人税等調整額	△1,097	25	72	
四半期(当期)純利益又は純損失(△)	1,683	△114	△190	
四半期キャッシュ・フロー計算書				
	当第2四半期累計期間 (平成24年2月21日から 平成24年8月20日まで)	前第2四半期累計期間 (平成23年2月21日から 平成23年8月20日まで)		
営業活動によるキャッシュ・フロー	402	△490		
投資活動によるキャッシュ・フロー	116	△56		
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,437	149		
現金及び現金同等物の増減額	△918	△397		
現金及び現金同等物の期首残高	928	730		
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	664	—		
現金及び現金同等物の四半期末残高	674	333		

- ③ 純資産合計は、76億14百万円となり、前事業年度末に比べて18億83百万円増加しました。主な要因は、四半期純利益16億83百万円の計上や、株式会社鈴丹との合併によりその他資本剰余金が2億30百万円増加したことによるものです。
- ④ 法人税等調整額は、株式会社鈴丹から引き継いだ繰越欠損金に対する繰延税金資産計上等により、△10億97百万円となりました。
- ⑤ 財務活動によるキャッシュ・フローは、△14億37百万円になりました。株式会社鈴丹との合併により、借入金が30億円増加したものの、当第2四半期累計期間において借入金を14億円返済したことによるものです。

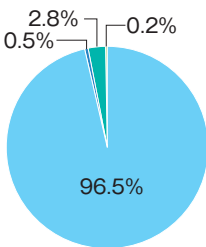
株式情報 (2012年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	7,307名

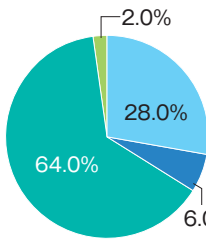
大株主 (2012年8月20日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ユニー株式会社	7,493	62.17
野村信託銀行株式会社 (投信口)	294	2.44
パレモ従業員持株会	242	2.01
個人株主A	222	1.84
BNP-PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG-JASDEC SECURITIES	156	1.29
株式会社三菱東京UFJ銀行	130	1.07
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	105	0.87
HSBC - FUND SERVICES, SPARX ASSET MANAGEMENT CO LTD	63	0.52
株式会社SBI証券	54	0.45
サンラリー株式会社	50	0.41

株主構成 (2012年8月20日現在)



株主数構成比	株主数	構成比
個人株主その他	7,049名	96.5%
証券会社・金融機関	35名	0.5%
その他国内法人	207名	2.8%
外国法人・個人	16名	0.2%
合計	7,307名	100.0%



株式数構成比	株式数	構成比
個人株主その他	3,381,003株	28.0%
証券会社・金融機関	722,929株	6.0%
その他国内法人	7,711,682株	64.0%
外国法人・個人	235,770株	2.0%
合計	12,051,384株	100.0%

株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会 毎年2月20日 期末配当金 毎年2月20日 中間配当金 毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による 公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
但し、旧株式会社鈴丹の株主様が特別口座に関するご照会をされる場合は、下記の電話照会先にご連絡ください。	
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-232-711 (通話料無料)
株主名簿管理人	名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-176-417

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社(旧株式会社鈴丹の株主様は三菱UFJ信託銀行株式会社)に口座(特別口座といいます。)を開設しております。
特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたしまして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様に対し、下記のとおり株主様ご優待品を進呈いたしております。

300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		5,000円相当の果物



会社概要 (2012年8月20日現在)

社名	株式会社 パレモ
設立	1984年11月22日
資本金	12億2,925万円
本社所在地	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
事業所	パレモ東京 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 日本橋T&Dビル3階・4階 パレモ大阪事務所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5丁目7番19号 第7新大阪ビル 8階
従業員数	4,025名 (ナショナル社員258名、エリア社員他3,767名)
事業内容	レディースアパレル、バラエティ雑貨、 バッグの専門店チェーン
ホームページ	http://www.palemo.co.jp/

役員 (2012年8月20日現在)

代表取締役社長	小田 保 則
専務取締役	吉 田 馨
専務取締役	松 井 理 記
常務取締役	永 井 隆 司
取締役	飯 田 務
取締役	江 里 口 直
取締役	手 塚 文 人
常勤監査役	黛 龍 二
監査役	伊 藤 章
監査役	中 村 弘

注:取締役のうち、手塚文人氏は社外取締役であります。
監査役のうち、伊藤 章、中村 弘の両氏は社外監査役であります。

沿革

1984年 11月	株式会社パレモ 設立(資本金1億円)
1985年 2月	株式会社パレモとして営業開始
1985年 7月	路面1号店 ギャルフィット原宿店オープン
1987年 3月	東京営業本部 開設
1988年 8月	POSシステムの導入
1992年 2月	増資 資本金2億円へ
1995年 2月	増資 資本金2億6,750万円へ
1996年 2月	額面株式5万円から50円へ変更
1998年 2月	シーベレット事業を営業譲受 増資 資本金2億8,145万円へ
2000年 8月	本社を愛知県稲沢市(現在地)へ移転
2001年 8月	大阪本部 開設
2003年 8月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年 7月	公募増資 資本金12億2,925万円へ
2004年 12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し ジャスダック証券取引所に株式を上場
2005年 8月	インセンス事業を営業譲受
2006年 11月	木糸土1号店 小田急新宿ミロードにオープン
2006年 12月	リメディア1号店 モレラ岐阜店にオープン
2007年 4月	ドスチ1号店 アピタ千秋店にオープン
2007年 10月	Re-J1号店 イオンモール羽生店にオープン
2008年 1月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 設立
2008年 6月	中国1号店 上海久光百貨店にオープン
2008年 6月	イルーシー300 1号店 サンテラスー宮店にオープン
2009年 6月	巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司 売却
2010年 2月	ヴィサリア1号店 渋谷109店にオープン
2010年 4月	大阪証券取引所JASDAQ市場に株式を上場
2010年 10月	大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
2010年 10月	リシェリエ1号店 ESTA札幌店にオープン
2011年 12月	ハレノヒ1号店 横浜ワールドポーターズ店にオープン
2012年 2月	株式会社鈴丹と合併